

第 4 回 まちだの新たな学校づくり審議会の議事整理について（案）

第 4 回まちだの新たな学校づくり審議会（以下「審議会」）において各委員から発言のあった内容について、「認識が一致した事項」をまとめるとともに「町田市立学校の新たな通学区域のあり方に関する議論」及び「町田市立学校の新たな通学区域を調査審議するうえでの確認事項に関する議論」の論点を整理しましたので、下記のとおり提案いたします。

1 認識が一致した事項

■調査審議の視点

審議会では、町田市立学校の新たな通学区域の議論について、2020 年 3 月に教育委員会が策定した「町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方」（以下「基本的な考え方」）に基づいて、現在だけではなく、児童・生徒数の減少と学校施設の老朽化が進行する 20 年後、20 年後に町田に生まれ育つ未来の子どもたちの立場に立って、ソフト・ハードの両面からより良い教育環境をつくるために、下記の視点で調査審議を行うものとなりました。

(1) 「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査・意見募集」結果の尊重

学校統廃合を含めた通学区域のあり方や、学校統廃合を行う場合などにおいて新校舎を建設する際の新たな学校づくりのあり方の議論をより丁寧に行うために、2020 年 6 月に保護者・市民を対象とした「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査・意見募集」（以下「アンケート調査等」）を実施しました。

このアンケート調査と意見募集では、2020 年 10 月以降に審議会で具体的な検討に着手するための新たな通学区域（アンケート調査案）を示したうえでご意見をお聞きしたところ、2,572 人から延べ 6,921 件という多数のご意見をいただきました。

その内容についても、2019 年度の審議会において調査審議し、教育委員会が決定した基本的な考え方において定めた内容と共通するご意見が多く、約 98%が積極的または消極的ながらも学校統廃合を含めた通学区域の見直しに賛成または止むを得ないというご意見でした。

また、学校統廃合を含めた通学区域の見直しに反対されるご意見についても、町田の未来の子どもたちにより良い教育環境をつくる、という目的意識が共通しているものが多くありました。

どちらの立場のご意見についても町田市立学校の新たな通学区域のあり方を調査審議するうえで大切なご意見であることから、アンケート調査及び意見募集の結果を尊重して調査審議を行うものとなりました。

(2) 学校統廃合を含めた通学区域の見直しの必要性

アンケート調査・意見募集結果においては、学校統廃合を含めた通学区域の見直しに反対されるご意見も寄せられました。

しかし、児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化などの環境変化に対応しながら、町田の未来の子どもたちにソフト・ハードの両面からより良い教育環境をつくるためには学校統廃合が必要な状況であることから、学校統廃合を含めた通学区域の見直しを進めていくという共通認識をもって調査審議を行うものとなりました。

2 町田市立学校の新たな通学区域のあり方に関する議論

(1) 学校統廃合時・通学区域変更時の配慮事項について

① 魅力ある学校づくりに関する議論

通学時間・通学距離が遠くなる未来の子どもたちとその保護者に対して、新たな学校づくりのビジョンを定めて学校づくりを行うことで、遠くなくても通学したくなるような学校施設環境と教育内容を整備することが重要。

ただし、安全な通学環境とのバランスにも配慮することが重要。

② 地域ぐるみの新たな学校づくりに関する議論

実際に学校統廃合を行う場合には、教育関係者だけで学校づくりの議論を行うのではなく、地域ぐるみの特別なプロジェクトのように位置づけることが重要。

そして、保護者や地域住民との協力体制をつくって、新しい学校の歴史を地域とともにつくるような新たな学校づくりの議論を地域ぐるみで行うことが重要。

③ ゆとりある学校施設環境の整備に関する議論

住所地に基づく就学指定校から、通学区域緩和制度を活用して通学しやすい学校へ指定校を変更して通学するためには、受け入れる側の学校に教室数が必要であり、そのキャパシティを確保することができるだけのゆとりある学校施設環境を確保することが重要。

④ 子どもたちへの教育的配慮に関する議論

学校統廃合時における教員の配置や、児童・生徒の事前の交流はこれまでの学校統廃合においても行われてきたもの。今後の学校統廃合においても、通学区域を統合する数年前から子どもたちの精神的な負担が軽減されるような配慮が重要。

⑤ 地域住民への配慮に関する議論

学校は防災拠点として重要な施設であることから、統合先となる学校を防災拠点とすることはもとより、廃校となる学校についても防災拠点として活用するような議論が重要。

また、学校統廃合で学校名をはじめとした学校を象徴するもの、地域住民や卒業生がふるさと感じるものが失われる場合には、その象徴となるものに対する配慮も重要。

(2) 学校統廃合時における望ましい学校の位置の議論について

① ゆとりある学校施設環境の整備に関する議論

町田の未来の子どもたちにより良い教育環境を整備するためには、できるだけゆとりある学校施設環境を整備することができる位置を選ぶことが重要。

また、町田市立学校がすでに設置されている位置だけでなく、新たな学校づくりのビジョンを実現するためにふさわしい土地を確保するという視点を持つかどうか検討課題。

② 通学距離・時間や面積の広さなどの比較検討に関する議論

望ましい学校の位置を検討する際に、通学距離・時間が長くても敷地が広い場合や、通学距離・時間が短くても敷地が狭い場合があり、各地区、各学校の実情が異なることから、通学距離・時間や面積の広さなど総合的に考えていって位置を決定していくことが重要。

3 町田市立学校の新たな通学区域を調査審議するうえでの確認事項

(1) 確認事項の精選に関する議論について

学校統廃合の検討は地域性が高いことや、交通安全対策などの共通事項は、重要な事項であるものの 10 年後、20 年後の道路環境が予測しづらく、現時点で対策を検討することが困難であることから、各地区共通の確認事項よりも、各地域における「児童・生徒の通学のしやすさ」や「ゆとりある学校施設環境の整備」などの議論に必要な確認事項に精選して議論することが重要。